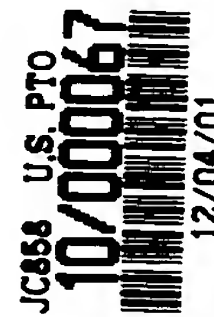


IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of)	
)	
Makoto KITAMURA et al.)	Group Art Unit: Unassigned
)	
Application No.: Unassigned)	Examiner: Unassigned
)	
Filed: December 4, 2001)	
)	
For: POWDER SUPPLYING APPARATUS...)	
)	
)	
)	
)	



CLAIM FOR CONVENTION PRIORITY

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior foreign applications in the following foreign country is hereby requested, and the right of priority provided in 35 U.S.C. § 119 is hereby claimed:

Japanese Patent Application Nos. 2000-367968; 2000-367969; 2000-367970; 2000-367971; 2000-367972; 2000-381990; 2001-323744

Filed: December 4, 2000; December 4, 2000; December 4, 2000; December 4, 2000; December 4, 2000; December 15, 2000; October 22, 2001 respectively

In support of this claim, enclosed are certified copies of said prior foreign applications. Said prior foreign applications were referred to in the oath or declaration. Acknowledgment of receipt of the certified copies is requested.

Respectfully submitted,

BURNS, DOANE, SWECKER & MATHIS, L.L.P.

Date: December 4, 2001

By:

Platon N. Mandros
Registration No. 22,124

P.O. Box 1404
Alexandria, Virginia 22313-1404
(703) 836-6620

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年12月 4日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-367968

出 願 人

Applicant(s):

株式会社村田製作所

2001年10月 1日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造

出証番号 出証特2001-3089747

【書類名】 特許願

【整理番号】 300632

【提出日】 平成12年12月 4日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B63B 11/00

【発明者】

 【住所又は居所】 京都府長岡京市天神 2 丁目 2 6 番 1 0 号 株式会社村田
 製作所内

 【氏名】 高橋 繁己

【発明者】

 【住所又は居所】 京都府長岡京市天神 2 丁目 2 6 番 1 0 号 株式会社村田
 製作所内

 【氏名】 織田 善夫

【発明者】

 【住所又は居所】 京都府長岡京市天神 2 丁目 2 6 番 1 0 号 株式会社村田
 製作所内

 【氏名】 桧垣 忠則

【発明者】

 【住所又は居所】 京都府長岡京市天神 2 丁目 2 6 番 1 0 号 株式会社村田
 製作所内

 【氏名】 北村 誠

【特許出願人】

 【識別番号】 000006231

 【氏名又は名称】 株式会社村田製作所

 【代表者】 村田 泰隆

【代理人】

 【識別番号】 100087619

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 下市 努

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 028543

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9004883

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 粉末成形装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ダイセットに配設されたダイスと少なくとも第 1, 第 2 パンチを有する上, 下パンチユニットとからなる金型と、上記第 1, 第 2 パンチを駆動軸を介してそれぞれ独立して駆動することにより加圧成形を行なう加圧駆動機構とを備えた粉末成形装置において、上記ダイスに第 1, 第 2 パンチを加圧方向に相対移動可能にかつ脱落不能に連結する連結手段と、上記ダイスを上記ダイセットに第 1, 第 2 パンチとともに一括して装着固定する固定手段とを備えたことを特徴とする粉末成形装置。

【請求項 2】 請求項 1 において、上記連結手段は、上記第 1, 第 2 パンチの各第 1, 第 2 パンチホルダに形成された加圧方向に延びる凹溝と、上記ダイス及び第 1 パンチホルダに固着された係合ピンとからなり、上記ダイスの係合ピンを第 1 パンチホルダの凹溝に係合させ、該第 1 パンチホルダの係合ピンを第 2 パンチホルダの凹溝に係合させて構成されていることを特徴とする粉末成形装置。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 において、上記固定手段は、上記ダイスとダイセットとの間に介設され、該ダイスとダイセットとをテーパ嵌合させる固定ブッシュにより構成されていることを特徴とする粉末成形装置。

【請求項 4】 請求項 1 又は 2 において、上記固定手段は、上記ダイスを押圧部材を介して上記ダイセットに押圧固定するアクチュエータにより構成されていることを特徴とする粉末成形装置。

【請求項 5】 請求項 1 又は 2 において、上記固定手段は、上記ダイスとダイセットとの間に介設され、内部に充填された圧力流体を加圧することにより上記ダイスをダイセットに押圧固定する流体圧固定部材により構成されていることを特徴とする粉末成形装置。

【請求項 6】 ダイセットに配設されたダイスと少なくとも第 1, 第 2 パンチを有する上, 下パンチユニットとからなる金型と、上記第 1, 第 2 パンチを駆動軸を介してそれぞれ独立して駆動することにより加圧成形を行なう加圧駆動機構とを備えた粉末成形装置において、上記各第 1, 第 2 パンチを上記駆動軸に一

括して着脱可能に締結する締結手段を備えたことを特徴とする粉末成形装置。

【請求項 7】 請求項 6 において、上記締結手段は、上記各駆動軸の加圧ラムに起立形成された鉤状の爪部材と、上記第 1，第 2 パンチの各パンチホルダに固着された係合ピンとからなり、各パンチホルダをこれの係合ピンを上記爪部材に係合させて締結するように構成されていることを特徴とする粉末成形装置。

【請求項 8】 請求項 7 において、上記各パンチホルダにはアクチュエータが接続されており、該アクチュエータにより各パンチホルダを上記加圧ラムに一括して締結するように構成されていることを特徴とする粉末成形装置。

【請求項 9】 請求項 1 ないし 8 の何れかにおいて、上記ダイセットは、上記金型を粉末供給ステージ，加圧成形ステージ，成形体取り出しステージの間で搬送するように構成されていること特徴とする粉末成形装置。

【請求項 10】 ダイセットに配設されたダイスと少なくとも第 1，第 2 パンチを有する上，下パンチユニットとからなる金型と、上記第 1，第 2 パンチを駆動軸を介してそれぞれ独立して駆動することにより加圧成形を行なう加圧駆動機構とを備えた粉末成形装置において、上記ダイスに第 1，第 2 パンチを加圧方向に相対移動可能にかつ脱落不能に連結する連結手段と、上記ダイスを上記ダイセットに第 1，第 2 パンチとともに一括して装着固定する固定手段と、上記各第 1，第 2 パンチを上記駆動軸に一括して着脱可能に締結する締結手段とを備えたことを特徴とする粉末成形装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、セラミックス，あるいは食品，薬品等の粉末原料をダイスと上，下パンチユニットとからなる金型により加圧成形を行なうようにした粉末成形装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

この種の粉末成形装置としては、粉末成形空間を有するダイスと複数のパンチを備えた上，下パンチユニットとからなる金型と、上記上，下パンチユニットの

各パンチをそれぞれ独立して駆動することにより加圧成形を行なう加圧駆動機構とを備えたものが一般的である。このような粉末成形装置では、従来、上記金型をダイセットにボルト等により固定しており、このため金型の交換を行なう場合には、金型をダイセットごと交換するか、あるいはダイセットを取り外して金型を一旦分解し、新たな金型を組み付けた後、ダイセットを装置本体に再度組み付けるかの方法が採用されている。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、上記従来のように、重量物のダイセットを装置本体から取り外す作業が必要であり、また金型を分解した後、ダイセットを組み直すという手間のかかる作業となることから、金型の交換に時間がかかり作業性が低いという問題がある。特に、多品種少量生産を行なう場合には、金型の交換頻度が増えることから、この点での改善が要請されている。

【 0 0 0 4 】

本発明は、上記従来状況に鑑みてなされたもので、金型を交換する際の交換時間を短縮して作業性を向上でき、ひいては多品種少量生産に対応できる粉末成形装置を提供することを目的としている。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 の発明は、ダイセットに配設されたダイスと少なくとも第 1、第 2 パンチを有する上、下パンチユニットとからなる金型と、上記第 1、第 2 パンチを駆動軸を介してそれぞれ独立して駆動することにより加圧成形を行なう加圧駆動機構とを備えた粉末成形装置において、上記ダイスに第 1、第 2 パンチを加圧方向に相対移動可能にかつ脱落不能に連結する連結手段と、上記ダイスを上記ダイセットに第 1、第 2 パンチとともに一括して装着固定する固定手段とを備えたことを特徴としている。

【 0 0 0 6 】

請求項 2 の発明は、請求項 1 において、上記連結手段は、上記第 1、第 2 パンチの各第 1、第 2 パンチホルダに形成された加圧方向に延びる凹溝と、上記ダイ

ス及び第 1 パンチホルダに固着された係合ピンとからなり、上記ダイスの係合ピンを第 1 パンチホルダの凹溝に係合させ、該第 1 パンチホルダの係合ピンを第 2 パンチホルダの凹溝に係合させて構成されていることを特徴としている。

【 0 0 0 7 】

請求項 3 の発明は、請求項 1 又は 2 において、上記固定手段は、上記ダイスとダイセットとの間に介設され、該ダイスとダイセットとをテーパ嵌合させる固定ブッシュにより構成されていることを特徴としている。

【 0 0 0 8 】

請求項 4 の発明は、請求項 1 又は 2 において、上記固定手段は、上記ダイスを押圧部材を介して上記ダイセットに押圧固定するアクチュエータにより構成されていることを特徴としている。

【 0 0 0 9 】

請求項 5 の発明は、請求項 1 又は 2 において、上記固定手段は、上記ダイスとダイセットとの間に介設され、内部に充填された圧力流体を加圧することにより上記ダイスをダイセットに押圧固定する流体圧固定部材により構成されていることを特徴としている。

【 0 0 1 0 】

請求項 6 の発明は、請求項 1 と同様の粉末成形装置において、上記各第 1，第 2 パンチを上記駆動軸に一括して着脱可能に締結する締結手段を備えたことを特徴としている。

【 0 0 1 1 】

請求項 7 の発明は、請求項 6 において、上記締結手段は、上記各駆動軸の加圧ラムに起立形成された鉤状の爪部材と、上記第 1，第 2 パンチの各パンチホルダに固着された係合ピンとからなり、各パンチホルダをこれの係合ピンを上記爪部材に係合させて締結するように構成されていることを特徴としている。

【 0 0 1 2 】

請求項 8 の発明は、請求項 7 において、上記各パンチホルダにはアクチュエータが接続されており、該アクチュエータにより各パンチホルダを上記加圧ラムに一括して締結するように構成されていることを特徴としている。

【 0 0 1 3 】

請求項 9 の発明は、請求項 1 ないし 8 の何れかにおいて、上記ダイセットは、上記金型を粉末供給ステージ、加圧成形ステージ、成形体取り出しステージの間で搬送するように構成されていること特徴としている。

【 0 0 1 4 】

請求項 1 0 の発明は、請求項 1， 6 と同様の粉末成形装置において、上記ダイスに第 1， 第 2 パンチを加圧方向に相対移動可能にかつ脱落不能に連結する連結手段と、上記ダイスを上記ダイセットに第 1， 第 2 パンチとともに一括して装着固定する固定手段と、上記各第 1， 第 2 パンチを上記駆動軸に一括して着脱可能に締結する締結手段とを備えたことを特徴としている。

【 0 0 1 5 】

【発明の作用効果】

請求項 1 の発明にかかる粉末成形装置によれば、ダイスに第 1， 第 2 パンチを加圧方向のみ移動を許容するように連結し、該ダイスをダイセットに第 1， 第 2 パンチとともに一括して装着固定したので、金型の交換を行なう場合には、ダイセットからダイスを取り外すという簡単な作業で第 1， 第 2 パンチも同時に外すことができる。また新たな金型を組み付けるには、ダイスをダイセットに装着固定するという簡単な作業で済み、従来のダイセットごと外したり、組み付けたり、あるいは金型を分解したりする場合に比べて金型交換時間を短縮でき、作業性を向上できる。これにより多品種少量生産を行なう場合の金型の交換を容易に行なうことができ、生産効率を向上でき、上述の要請に応えることができる。

【 0 0 1 6 】

請求項 2 の発明では、各第 1， 第 2 パンチホルダの凹溝にダイス、第 1 パンチホルダの係合ピンを摺動自在に係合させたので、簡単な構造でダイスに第 1， 第 2 パンチを脱落不能に連結することができる。また凹溝の溝幅を係合ピンの横幅と略同じとすることにより、パンチホルダの軸周りの回転を阻止することができる。

【 0 0 1 7 】

請求項 3 の発明では、ダイスとダイセットとを固定ブッシュによりテーパ嵌合

させたので、固定ブッシュをダイセットに装着するだけでダイスを位置決め固定することができ、位置決め精度を向上できるとともに、作業性をさらに向上できる。

【 0 0 1 8 】

請求項 4 の発明では、ダイスを押圧部材を介してアクチュエータによりダイセットに押圧固定したので、金型交換作業を自動で行なうことが可能となり、作業性をさらに向上できる。

【 0 0 1 9 】

請求項 5 の発明では、ダイスとダイセットとを流体圧力を利用して押圧固定したので、簡単な作業でダイスを装着固定することができ、金型交換時間をさらに短縮することが可能であり、作業性を向上できる。また、流体圧力により固定ブッシュが半径方向（内外）に均一に膨張するので、ダイセットの位置に合わせてダイスを精度よく位置決めできる。

【 0 0 2 0 】

請求項 6 の発明によれば、各第 1，第 2 パンチを駆動軸に一括して着脱可能に締結したので、金型の交換を行なう場合には、駆動軸からパンチユニットを簡単に取り外すことができ、金型交換時間を短縮でき、作業性を向上できる。

【 0 0 2 1 】

請求項 7 の発明では、各駆動軸の加圧ラムに爪部材を起立形成し、各パンチホルダの係合ピンを上記爪部材に係合させて締結するようにので、簡単な構造で着脱作業を行なうことができ、この点からも作業性を向上できる。

【 0 0 2 2 】

請求項 8 の発明では、パンチホルダをアクチュエータにより加圧ラムに締結したので、金型交換作業を自動で行なうことが可能となり、作業性をさらに向上できる。

【 0 0 2 3 】

請求項 9 の発明では、金型を各ステージ間にて搬送するようにしたので、多品種少量生産に対応しながら、連続生産に対応できる。

【 0 0 2 4 】

請求項 10 の発明では、ダイスに第 1, 第 2 パンチを加圧方向のみ移動を許容するように連結し、該ダイスをダイセットに第 1, 第 2 パンチとともに一括して装着固定したので、金型の交換を行なう場合には、ダイセットからダイスを取り外すという簡単な作業で第 1, 第 2 パンチも同時に外すことができ、請求項 1 と同様の効果が得られる。また上記各第 1, 第 2 パンチを駆動軸に一括して着脱可能に締結したので、金型の交換を行なう場合には、駆動軸からパンチユニットを簡単に取り外すことができ、金型交換時間を短縮でき、作業性を向上できる。

【 0 0 2 5 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明する。

【 0 0 2 6 】

図 1 ないし図 7 は、請求項 1, 2, 6, 7, 9, 10 の発明の一実施形態による粉末成形装置を説明するための図であり、図 1, 図 2 は下パンチユニットの連結固定状態を示す断面図、斜視図、図 3 は下パンチユニットが締結される加圧ラムの平面図、図 4, 図 5 は下パンチユニットの連結状態を示す図、図 6 は粉末成形装置の概略図、図 7 は搬送テーブルの搬送動作を示す図である。

【 0 0 2 7 】

図において、1 はセラミックス粉末原料を加圧成形することによりセラミック電子部品素子を製造する粉末成形装置を示している。この粉末成形装置 1 は、粉末成形空間を有するダイス 5 と上, 下パンチユニット 6, 7 とからなる金型 2 と、該金型 2 を粉末供給ステージ A, 加圧成形ステージ B, 機械加工ステージ C, 成形体取り出しステージ D の間で搬送する円板状の搬送テーブル (ダイセット) 8 と、上記上, 下パンチユニットを独立駆動してセラミック粉末原料の加圧成形を行なう加圧駆動機構 3 とを備えている。

【 0 0 2 8 】

上記搬送テーブル 8 の外周部には 90 度角度間隔ごとに装着孔 8 a が形成されており、該各装着孔 8 a に上記ダイス 5 が装着されている。

【 0 0 2 9 】

また上記上パンチユニット 6 は上第 1 パンチ 6 a に上第 2, 第 3 パンチ 6 b,

6 c をそれぞれ互いに相対移動可能に挿入してなるものであり、また上記下パンチユニット 7 は上記同様に下第 1 パンチ 7 a に下第 2, 第 3 パンチ 7 b, 7 c を互いに相対移動可能に挿入してなるものである。ここで、上, 下パンチユニット 6, 7 は、後述する各パンチホルダ 2 5 ~ 2 7, 2 8 ~ 3 0 及び各係合ピン 3 3 ~ 3 5 を含んでいる。上記上パンチユニット 6 は加圧成形ステージ B の上方に配設されており、上記下パンチユニット 7 は搬送テーブル 8 の各ダイス 5 に後述する連結手段を介して連結されている。

【 0 0 3 0 】

上記搬送テーブル 8 は、外付けの回転駆動機構（不図示）により回転駆動され、上記粉末供給ステージ A に位置するダイス 5 内にセラミック粉末原料が充填されると矢印 a 方向に 9 0 度回転する。これによりセラミック粉末原料が充填された金型 2 は粉末加圧ステージ B に搬送され、ここで上, 下パンチユニット 6, 7 により加圧成形が行われる。このとき上記粉末供給ステージ A に搬送された次のダイス 5 内にセラミック粉末原料が充填される。

【 0 0 3 1 】

加圧成形が終了すると、搬送テーブル 8 が 9 0 度回転し、加圧成形された成形体は機械加工ステージ C に搬送され、ここで切削, 孔あけ, あるいはバリ取り等の機械加工が行われる。このとき上記粉末加圧ステージ B では次のセラミック粉末の加圧成形が行われ、上記粉末供給ステージ A ではその次のダイス 5 にセラミック粉末が充填される。

【 0 0 3 2 】

そして機械加工ステージ C にて所定の機械加工が終了すると、搬送テーブル 8 が 9 0 度回転し、加工済み成形体を成形体取り出しステージ D に搬送し、ここで成形体を外部に取り出し、所定の個所に回収する。この後、空になったダイス 5 は粉末供給ステージ A に再度搬送される。このようにして搬送テーブル 8 を順次回転させることにより成形体が連続生産される。

【 0 0 3 3 】

上記加圧駆動機構 3 は、上第 1, 第 2, 第 3 駆動軸 1 0, 1 1, 1 2 を不図示のボールねじを介してサーボモータによりそれぞれ独立して昇降駆動する上駆動

部 3 a と、下第 1, 第 2, 第 3 駆動軸 1 3, 1 4, 1 5 を同じく不図示のボールねじを介してサーボモータによりそれぞれ独立して昇降駆動する下駆動部 3 b とからなり、この上, 下駆動部 3 a, 3 b は共通の駆動ベース（不図示）に配置されている。

【 0 0 3 4 】

上記各上第 1, 第 2, 第 3 駆動軸 1 0, 1 1, 1 2 の上端間にはそれぞれ円板状の上第 1, 第 2, 第 3 加圧ラム 1 8, 1 9, 2 0 が接続されており、また各下第 1, 第 2, 第 3 駆動軸 1 3, 1 4, 1 5 の上端間にはそれぞれ円板状の下第 1, 第 2, 第 3 加圧ラム 2 1, 2 2, 2 3 が接続されている。この各加圧ラム 1 8 ~ 2 3 には後述する締結手段を介して上記上第 1 ~ 第 3 パンチ 6 a ~ 6 c 及び下第 1 ~ 第 3 パンチ 7 a ~ 7 c が締結されている。このようにして上記サーボモータによりボールねじを介して上第 1 ~ 第 3 パンチ 6 a ~ 6 c 及び下第 1 ~ 第 3 パンチ 7 a ~ 7 c をそれぞれ独立させて駆動することにより、均一な密度を有する各種の成形体を形成でき、例えば円筒状, 円柱状, 縦断面 H 形状, あるいは縦断面十字形状の成形体の加工が行えるようになっている。

【 0 0 3 5 】

上記上第 1, 第 2, 第 3 パンチ 6 a, 6 b, 6 c にはそれぞれ上第 1, 第 2, 第 3 パンチホルダ 2 5, 2 6, 2 7 が接続されており、下第 1, 第 2, 第 3 パンチ 7 a, 7 b, 7 c にはそれぞれ下第 1, 第 2, 第 3 パンチホルダ 2 8, 2 9, 3 0 が接続されている。

【 0 0 3 6 】

上記各上, 下パンチホルダ 2 5 ~ 2 7, 2 8 ~ 3 0 同士は連結手段により互いに相対移動可能に連結されている。この連結手段は上, 下とも同様の構造であるので、下パンチユニット 7 の連結手段についてのみ説明する。

【 0 0 3 7 】

下第 1 パンチホルダ 2 8 は、図 1 に示すように、ダイス 5 内に摺動自在に挿入された円柱状の上ホルダ部 2 8 a に、下方に延びる円筒状の下ホルダ部 2 8 b を一体形成してなり、上記上ホルダ部 2 8 a の外壁には軸心方向（加圧方向）に延びる複数の凹溝 2 8 c が周方向に所定間隔をあけて形成されている。

【 0 0 3 8 】

また上記ダイス 5 の下端部には係合ピン 3 2, 3 2 が挿入固定されており、各係合ピン 3 2 は上記凹溝 2 8 c に摺動可能に係合している。この凹溝 2 8 c の上下長さは加圧トルークより若干長めに設定されており、また溝幅は上記係合ピン 3 2 の直径より僅かに大きく形成されている（図 4 の矢印 A 視参照）。これにより下第 1 パンチホルダ 2 8 はダイス 5 により回転、脱落不能にかつ昇降自在に支持されている。

【 0 0 3 9 】

下第 2 パンチホルダ 2 9 は、上記下第 1 パンチホルダ 2 8 の下ホルダ部 2 8 b 内に摺動自在に挿入された円柱状の上ホルダ部 2 9 a に、下方に延びる円筒状の下ホルダ部 2 9 b を一体形成してなり、上ホルダ部 2 9 a の外壁には軸心方向に延びる複数の凹溝 2 9 c が周方向に所定間隔をあけて形成されている。この各凹溝 2 8 c には上記第 1 パンチホルダ 2 8 の下ホルダ部 2 8 b に挿入固定された係合ピン 3 3 が摺動可能に係合しており、この係合ピン 3 3 の一部は下ホルダ部 2 8 b から直径方向外方に突出している。

【 0 0 4 0 】

また、上記第 3 パンチホルダ 3 0 は、上記下第 2 パンチホルダ 2 9 の下ホルダ部 2 9 b に摺動自在に挿入された円柱状のホルダ本体 3 0 a に軸方向に延びる複数の凹溝 3 0 c を周方向に所定間隔をあけて形成してなり、この各凹溝 3 0 c には上記第 2 パンチホルダ 2 9 の下ホルダ部 2 9 b に挿入固定された係合ピン 3 4 が摺動可能に係合しており、基本的な構造は上記と略同様である。また上記ホルダ本体 3 0 a の下部には係合ピン 3 5 が両端部を直径方向外方に突出させて挿入固定されている。

【 0 0 4 1 】

上記ダイス 5 には固定手段としての固定ブッシュ 3 7 が装着されている。この固定ブッシュ 3 7 は上記ダイス 5 が挿入された円筒体 3 7 a の上縁部に固定フランジ 3 7 b を一体形成してなるものであり、この固定フランジ 3 7 b は上記ダイス 5 とともに搬送テーブル 8 に 2 本のボルト 3 8 により締結固定されている。

【 0 0 4 2 】

上記各上, 下パンチホルダ 2 5 ~ 2 7, 2 8 ~ 3 0 は締結手段により上記上, 下第 1 ~ 第 3 加圧ラム 1 8 ~ 2 0, 2 1 ~ 2 3 に着脱可能に締結されている。この締結手段は上, 下とも同様の構造であるので、下第 3 加圧ラム 2 3 の締結手段についてのみ説明する。

【 0 0 4 3 】

上記下第 3 加圧ラム 2 3 の上面には円形状の爪部材 3 9 が形成されている。この爪部材 3 9 は、縦壁 3 9 a と該縦壁 3 9 a の上端から内側に屈曲する上壁 3 9 b とからなる縦断面鉤状のものであり、上壁 3 9 b には直径方向に対向するように切欠き部 3 9 c が形成されている。上記爪部材 3 9 の内径は上記下第 3 パンチホルダ 3 0 が挿入可能な大きさに設定されており、上記上壁 3 9 b は切欠き部 3 9 c から周方向に行くほど高さが小さくなるように設定されている。

【 0 0 4 4 】

そして下第 3 パンチホルダ 3 0 を爪部材 3 9 内に挿入するとともに係合ピン 3 5 を上記切欠き部 3 9 c から爪部材 3 9 内に差し込み、この状態でパンチホルダ 3 0 を回転させる。すると係合ピン 3 5 が上壁 3 9 b 内面に摩擦力をもって締結固定される。

【 0 0 4 5 】

次に本実施形態の作用効果について説明する。

【 0 0 4 6 】

搬送テーブル 8 に下パンチユニット 7 を取付けるには、まず、予めダイス 5 に第 1 ~ 第 3 パンチ 7 a ~ 7 c を連結してユニット化しておく。そして、上記ダイス 5 を固定ブッシュ 3 7 の円筒体 3 7 a 内に挿入し、固定ブッシュ 3 7 を搬送テーブル 8 の装着孔 8 a に挿入する。この状態で、上述のように下第 1 ~ 第 3 パンチホルダ 2 8, 2 9, 3 0 を下第 1 加圧ラム 2 1, 2 2, 2 3 に一括して締結する。この場合、各パンチホルダ 2 8 ~ 3 0 は、各凹溝 2 8 c ~ 3 0 c に係合する係合ピン 3 2 ~ 3 4 により相互に回転不能となっていることから、各パンチホルダ 2 8 ~ 3 0 を一括して同時に加圧ラム 2 1 ~ 2 3 に締結することが可能である。次に、各ボルト 3 8 によりダイス 5 を固定ブッシュ 3 7 とともに搬送テーブル 8 に締め付けて固定する。また、上第 1 ~ 第 3 パンチホルダ 2 5 ~ 2 7 を上第 1

～第 3 加圧ラム 1 8 ～ 2 0 に上記同様の手順にて一括して締結する。

【 0 0 4 7 】

上記金型 2 を交換する場合には、各ボルト 3 8 を緩めて外し、下第 1 ～第 3 パンチホルダ 2 8 ～ 3 0 を回転させて下第 1 ～第 3 加圧ラム 2 1 ～ 2 3 から一括して外し、この状態で固定ブッシュ 3 7 を搬送テーブル 8 から抜き取る。これによりダイス 5、下パンチユニット 7 も同時に外れることとなる。また上記上パンチユニット 6 についても上記同様に上第 1 ～第 3 パンチホルダ 2 5 ～ 2 7 を上第 1 ～第 3 加圧ラム 1 8 ～ 2 0 から一括して外す。

【 0 0 4 8 】

このように本実施形態によれば、ダイス 5 に下第 1 ～第 3 パンチホルダ 2 8 ～ 3 0 を互いに相対移動可能にかつ脱落、回転不能に連結し、上記ダイス 5 を固定ブッシュ 3 7 に挿入し、該固定ブッシュ 3 7 をダイス 5 とともに搬送テーブル 8 にボルト締め固定したので、金型の交換を行なう場合には、各ボルト 3 8 を取り外し、下第 1 ～第 3 パンチホルダ 2 8 ～ 3 0 を下第 1 ～第 3 加圧ラム 2 1 ～ 2 3 から外すだけで、ダイス 5 及び下パンチユニット 7 を搬送テーブル 8 から抜き取ることができる。また新たな金型を組み付けるには、固定ブッシュ 3 7 を搬送テーブル 8 の装着孔 8 a に挿入し、下第 1 ～第 3 パンチホルダ 2 8 ～ 3 0 を各加圧ラム 2 1 ～ 2 3 に締結した後、ダイス 5 をボルト締め固定するという、簡単な作業で済み、金型の交換を短時間でかつ容易に行なうことができ、作業性を向上できる。これにより多品種少量生産を行なう場合の金型交換を略ワンタッチで行なうことができ、生産効率を向上できる。

【 0 0 4 9 】

本実施形態では、各下第 1 ～第 3 パンチホルダ 2 8 ～ 3 0 に凹溝 2 8 c ～ 3 0 c を形成し、各凹溝 2 8 c ～ 3 0 c にそれぞれダイス 5、第 1、第 2 パンチホルダ 2 8、2 9 の係合ピン 3 2 ～ 3 4 を係合させたので、第 1 ～第 3 パンチホルダ 2 8 ～ 3 0 同士を簡単な構造で回転不能にかつ脱落不能に連結できる。また上パンチユニット 6 についても上記下パンチユニット 7 と同様の構造により連結したので、この場合にも簡単な構造で回転、脱落不能に連結できる。

【 0 0 5 0 】

本実施形態によれば、上第 1 ～ 第 3 加圧ラム 1 8 ～ 2 0 及び下第 1 ～ 第 3 加圧ラム 2 1 ～ 2 3 にそれぞれ爪部材 3 9 を形成し、該各爪部材 3 9 に上第 1 ～ 第 3 パンチホルダ 2 5 ～ 2 7 及び下第 1 ～ 第 3 パンチホルダ 2 8 ～ 3 0 の各係合ピン 3 3 ～ 3 5 を係合させることにより締結したので、各パンチホルダ 2 5 ～ 2 7 及び 2 8 ～ 3 0 を各駆動軸 1 0 ～ 1 2 及び 1 3 ～ 1 5 に一括して着脱することができ、金型の交換を短時間でかつ容易に行なうことができ、上記同様の効果が得られる。

【 0 0 5 1 】

また縦壁 3 9 a と上壁 3 9 b とからなる鉤状の爪部材 3 9 に各パンチホルダの係合ピン 3 3 ～ 3 5 を挿入して回転させることにより締結するようにしたので、簡単な構造で着脱作業を容易に行なうことができる。

【 0 0 5 2 】

なお、上記実施形態では、ボルト 3 8 により固定ブッシュ 3 7 をダイス 5 とともに搬送テーブル 8 に締め付けて固定した場合を説明したが、本発明はこれに限られるものではない。

【 0 0 5 3 】

図 8 は、請求項 3 の発明の一実施形態による固定手段を示している。本実施形態の固定手段は、固定ブッシュ 4 0 の内周面に凹テーパ部 4 0 a を形成するとともに、ダイス 5 の外周面に凸テーパ部 5 a を形成し、両テーパ部 5 a, 4 0 a を嵌合させることによりダイス 5 を搬送テーブル 8 に固定した例である。この場合には、ダイス 5 の位置決めを確実に行なうことができるとともに、上記ダイス 5 をワンタッチで装着固定することが可能であり、ボルトによる締結を不要にでき、金型交換時間をさらに短縮することができる。

【 0 0 5 4 】

図 9 (a) , (b) は、請求項 4 の発明の一実施形態による固定手段を示している。これはダイス 5 を押圧プレート 4 1 を介してエアシリンダ又は油圧シリンダ等のアクチュエータ 4 2 により搬送テーブル 8 に押圧固定するようにした例である。この場合には、ダイス 5 の固定を自動で行なうことが可能となり、作業性をさらに向上できる。

【 0 0 5 5 】

図 1 0 及び図 1 1 は、請求項 5 の発明の一実施形態による固定手段を示している。この固定手段は、固定ブッシュ（流体圧固定部材）4 5 に作動油 4 6 が充填されたオイルジャケット 4 5 a を形成するとともに、該ジャケット 4 5 a 内の作動油 4 6 を加圧するプラグ 4 7 を進退可能に螺着して構成されている。そしてプラグ 4 7 をねじ込むと油圧によりオイルジャケット 4 5 a が膨張し、これにより固定ブッシュ 4 5 が半径方向に均一に膨張してダイス 5 を搬送テーブル 8 に押圧固定することとなり、搬送テーブル 8 に対するダイス 5 の位置精度を向上できる。本実施形態では、プラグ 4 7 をねじ込むだけダイス 5 を固定でき、金型交換時間のさらなる短縮が可能である。

【 0 0 5 6 】

また上記ダイス 5 のフランジ 5 c には位置決めピン 4 8 が挿着されており、この位置決めピン 4 8 を搬送テーブル 8 の位置決め孔 8 c に挿入することにより、ダイス 5 の取付け位置、取付け方向が規制されている。

【 0 0 5 7 】

また、上記実施形態では、上、下第 1 ～第 3 パンチホルダ 2 5 ～2 7, 2 8 ～3 0 の各係合ピン 3 3 ～3 5 を各加圧ラム 1 8 ～2 0, 2 1 ～2 3 の爪部材 3 9 に回転させることにより締結した場合を説明したが、本発明はアクチュエータ、例えばエアシリンダ、油圧シリンダ等により各パンチホルダを加圧ラムに締結してもよく、このようにしたのが請求項 8 の発明である。この場合には、金型交換作業を自動で行なうことが可能となり、作業性をさらに向上できる。

【 0 0 5 8 】

さらに上記実施形態では、上、下パンチユニットを第 1, 第 2, 第 3 パンチを備えたものを例に説明したが、本発明はこれに限るものではなく、2 つ、あるいは 4 つ以上のパンチを備えたパンチユニットにも勿論適用できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

請求項 1, 2, 6, 7, 9, 1 0 の発明の一実施形態による粉末成形装置の下パンチユニットの連結固定状態を示す断面図である。

【図 2】

上記下パンチユニットの斜視図である。

【図 3】

上記下パンチユニットの加圧ラムの平面図である。

【図 4】

上記下パンチユニットの締結状態を示す図である。

【図 5】

上記上記下パンチユニットの締結状態を示す図である。

【図 6】

上記粉末成形装置の動作を示す概略図である。

【図 7】

上記粉末成形装置の搬送テーブルの動作を示す図である。

【図 8】

請求項 3 の発明の一実施形態による固定手段を示す断面図である。

【図 9】

請求項 4 の発明の一実施形態による固定手段を示す図である。

【図 1 0】

請求項 5 の発明の一実施形態による固定手段を示す断面図である。

【図 1 1】

上記固定手段の固定ブッシュの断面図である。

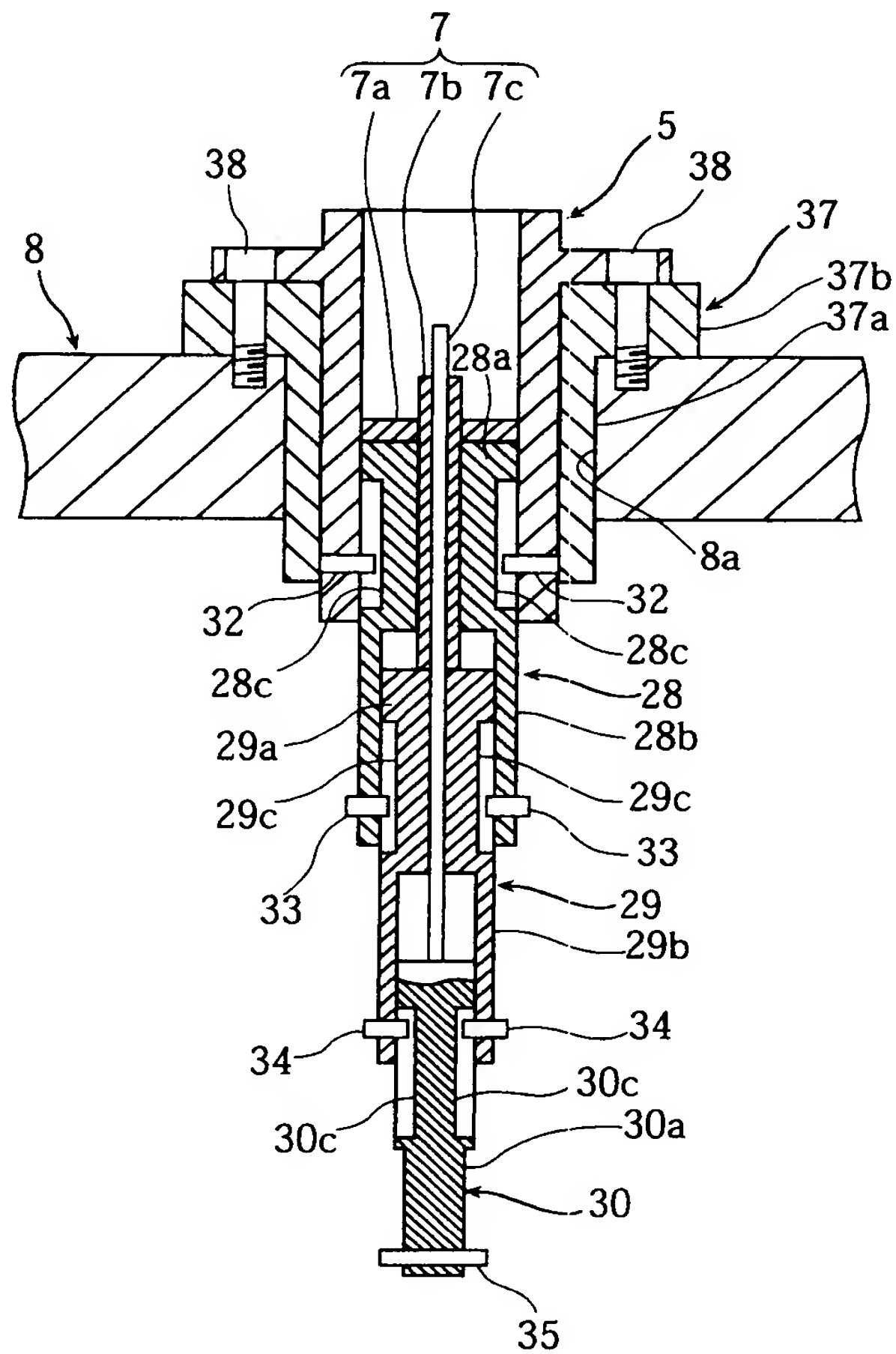
【符号の説明】

1	粉末成形装置
2	金型
3	加圧駆動機構
5	ダイス
6	上パンチユニット
6 a ~ 6 c	上第 1 ~ 第 3 パンチ
7	下パンチユニット
7 a ~ 7 c	下第 1 ~ 第 3 パンチ

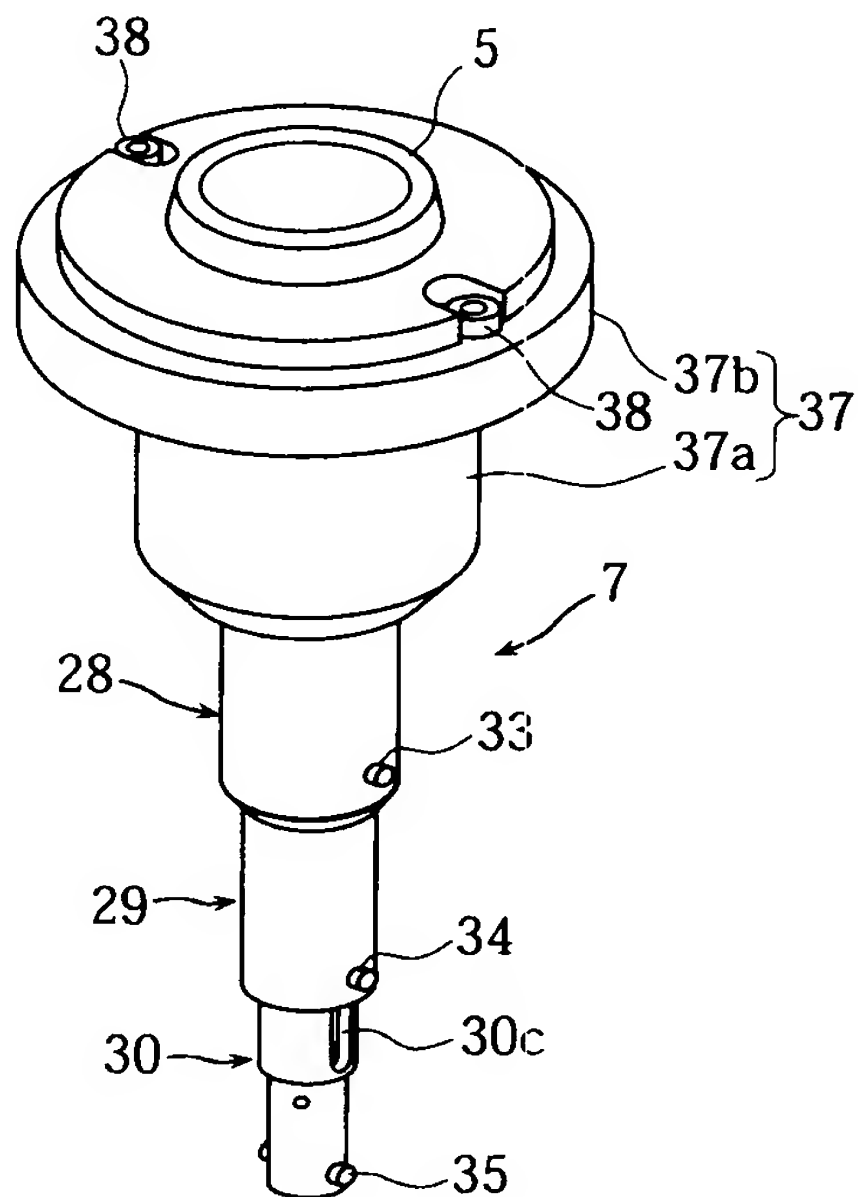
- 8 搬送テーブル（ダイセット）
- 1 0 ~ 1 2, 1 3 ~ 1 5 駆動軸
- 1 8 ~ 2 0, 2 1 ~ 2 3 加圧ラム
- 2 5 ~ 2 7 上第 1 ~ 第 3 パンチホルダ
- 2 8 ~ 3 0 下第 1 ~ 第 3 パンチホルダ
- 2 8 c ~ 3 0 c 凹溝（連結手段）
- 3 2 ~ 3 4 係合ピン（連結手段，締結手段）
- 3 7 固定ブッシュ（固定手段）
- 3 9 爪部材（締結手段）
- 4 0 固定ブッシュ（固定手段）
- 4 1 押圧部材（固定手段）
- 4 2 アクチュエータ
- 4 5 固定ブッシュ（流体圧固定部材）
- 4 6 作動油（圧力流体）
- A 粉末供給ステージ
- B 加圧成形ステージ
- C 機械加工ステージ
- D 成形体取り出しステージ

【書類名】 図面

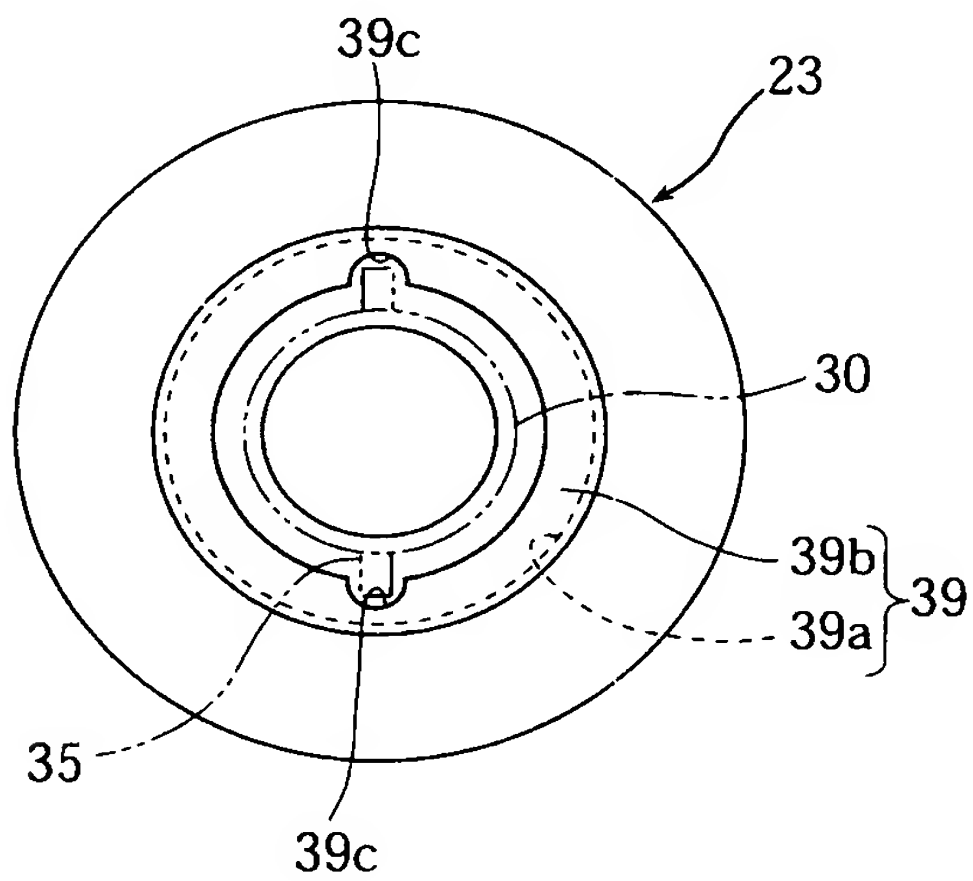
【図 1】



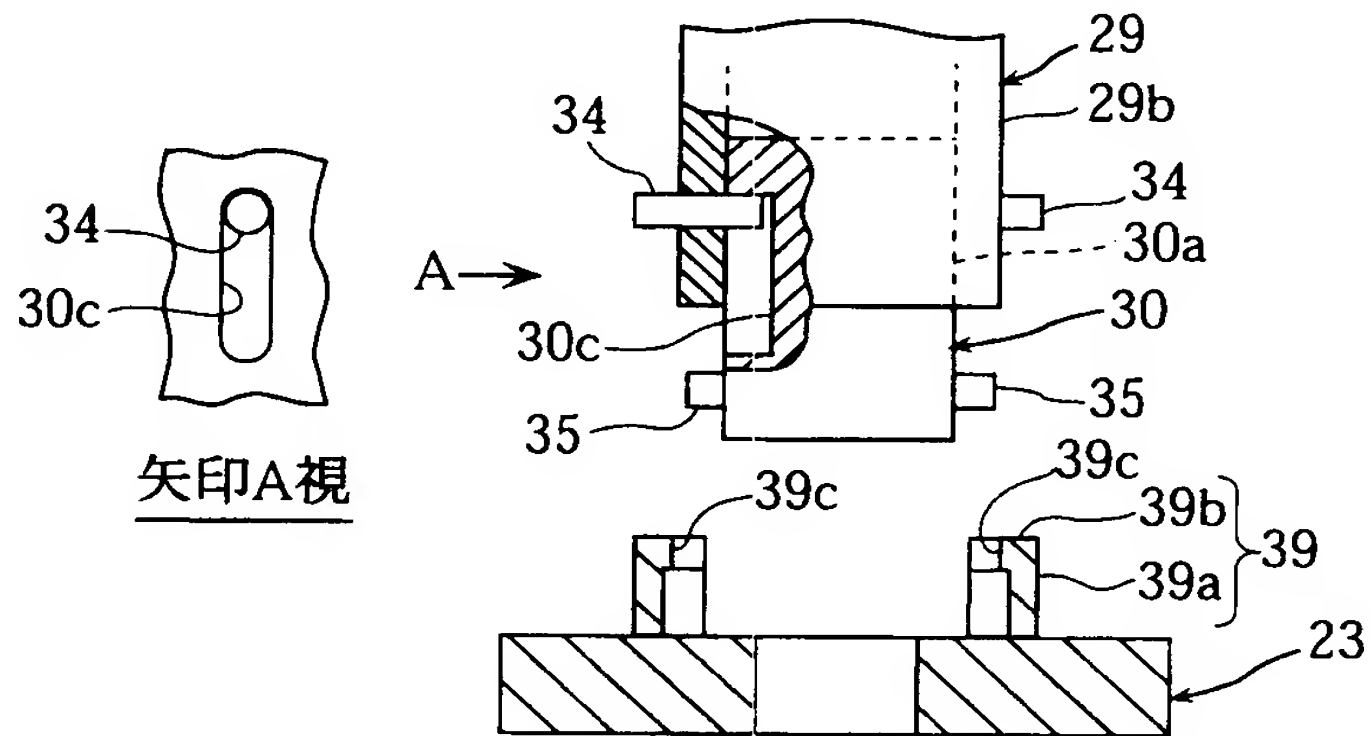
【図 2】



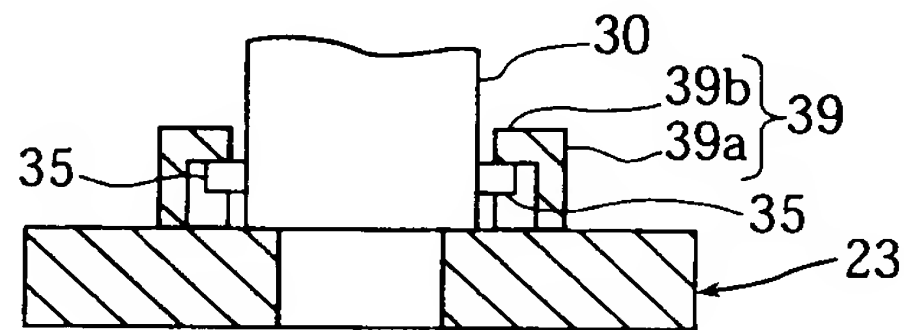
【図 3】



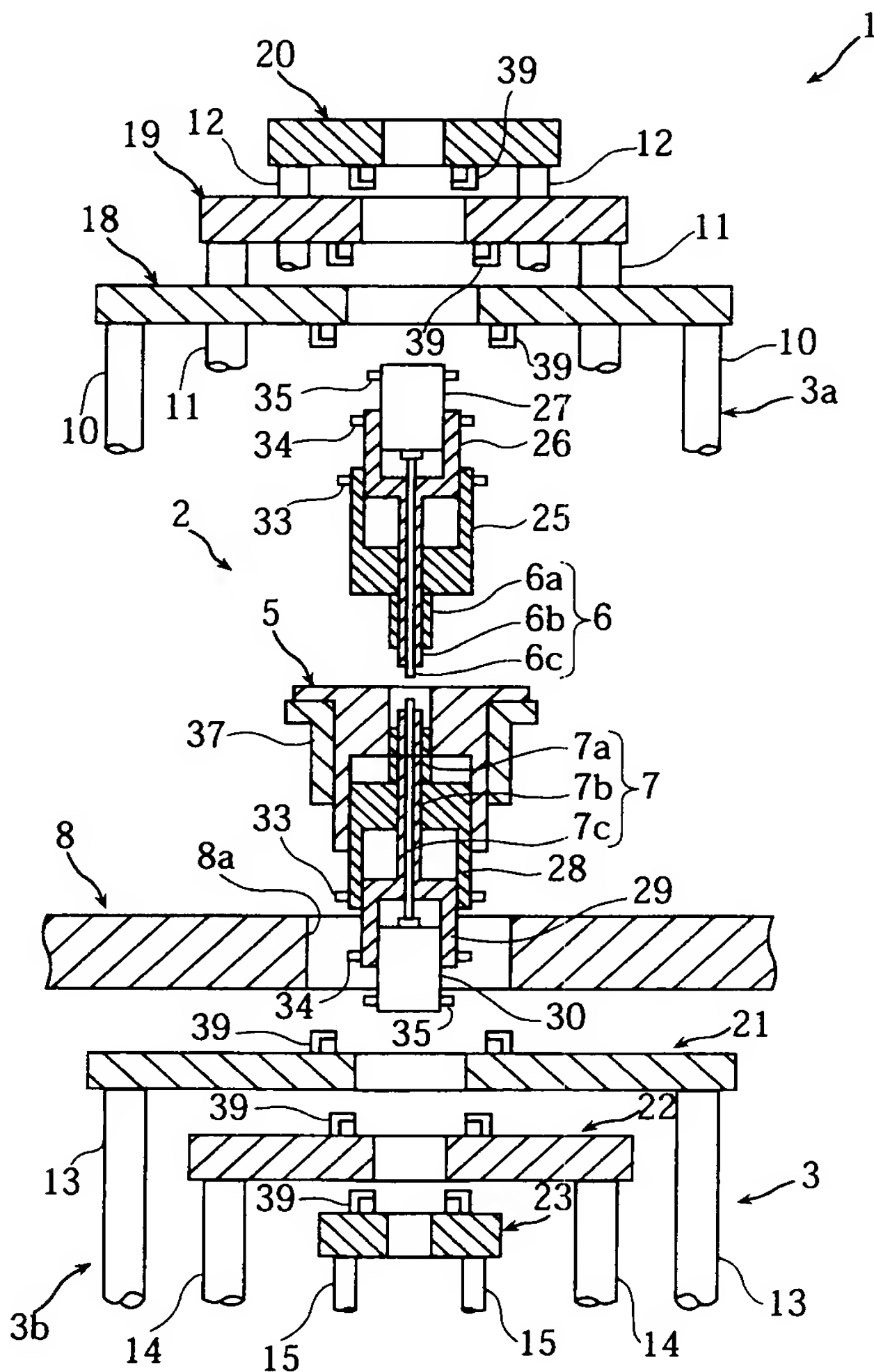
【図 4】



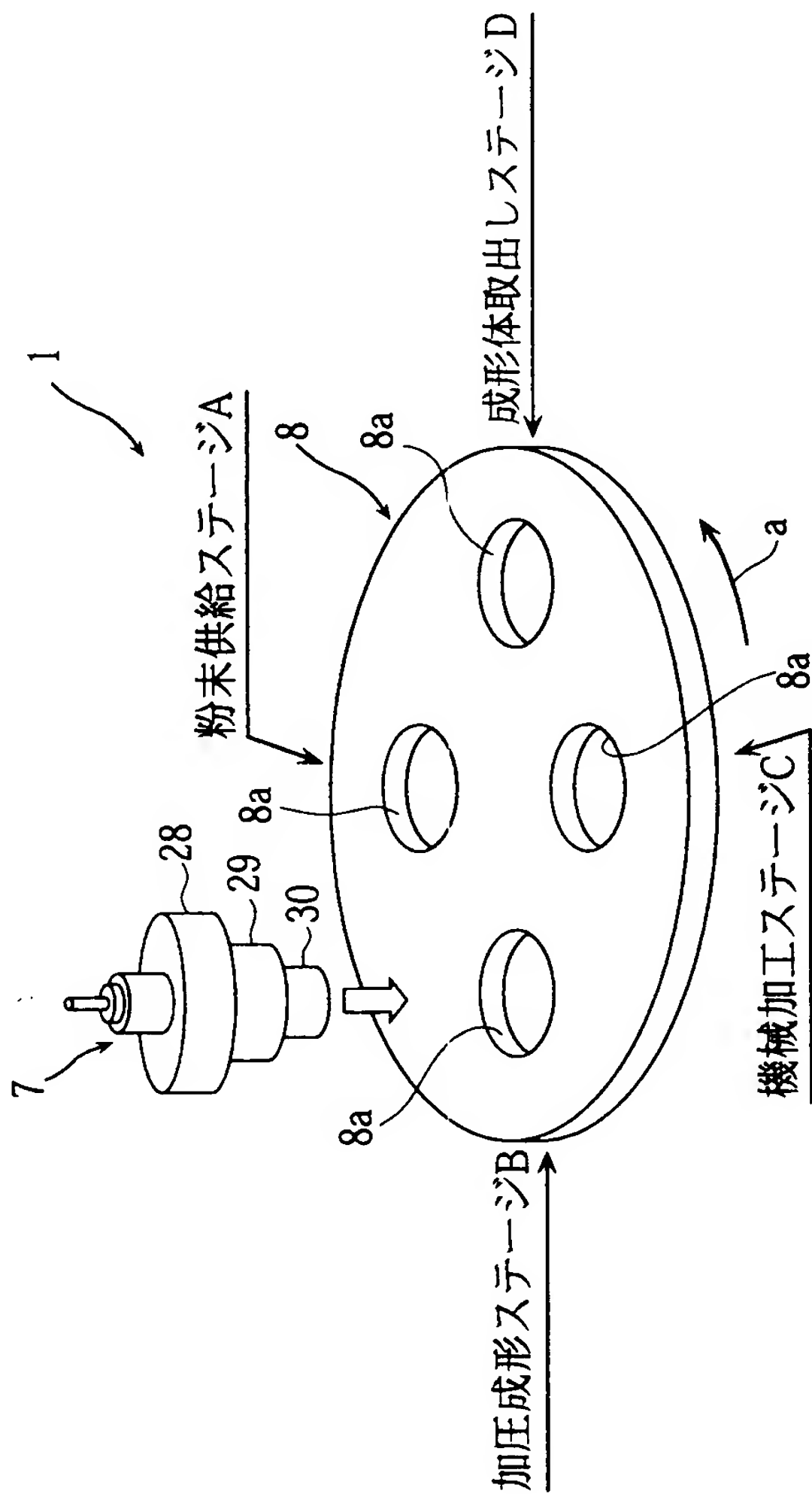
【図 5】



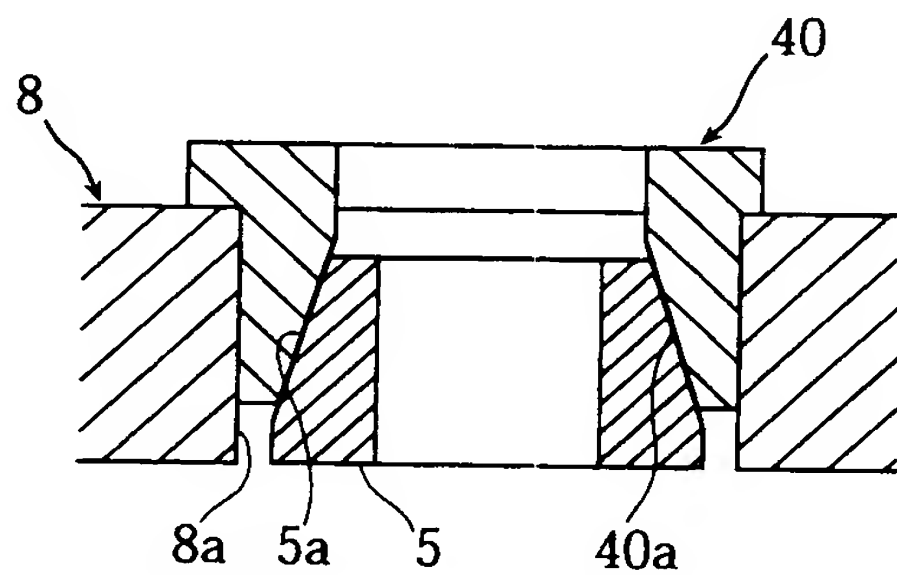
【図 6】



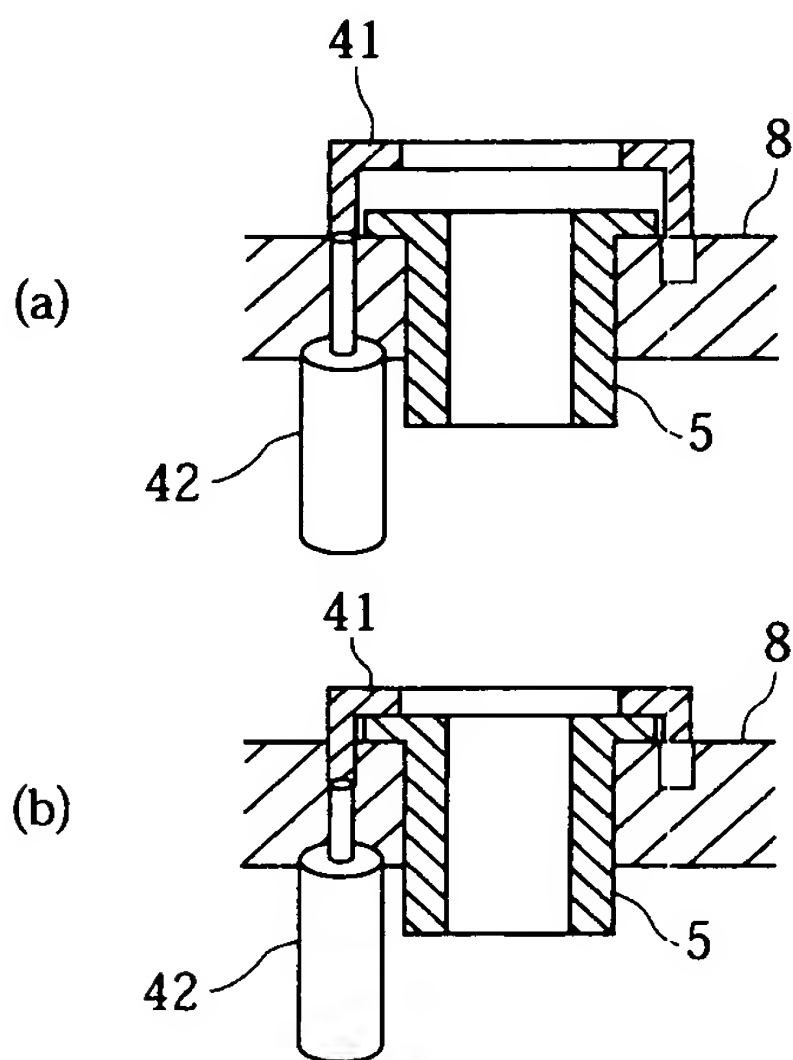
【図 7】



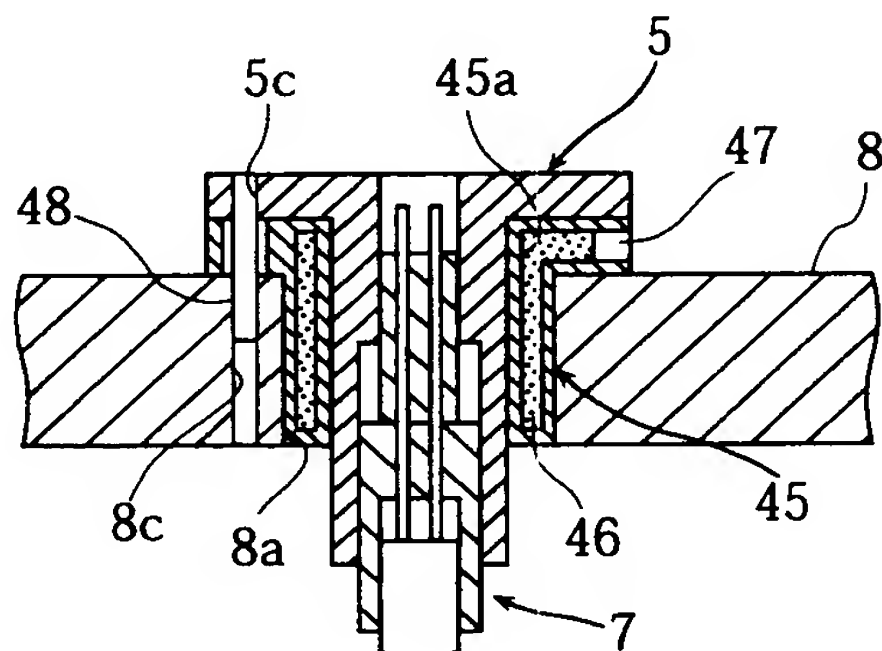
【図 8】



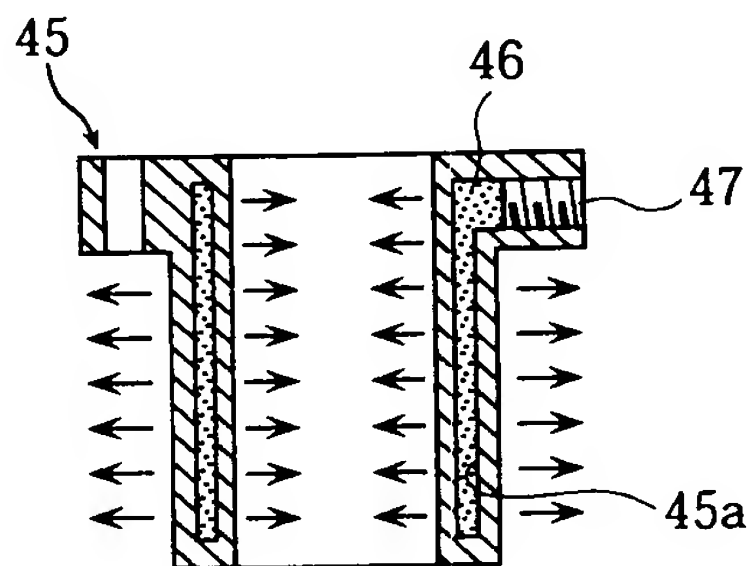
【図 9】



【図 1 0】



【図 1 1】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 金型を交換する際の交換時間を短縮して作業性を向上でき、ひいては多品種少量生産に対応できる粉末成形装置を提供する。

【解決手段】 搬送テーブル（ダイセット）8に配設されたダイス5と第1～第3パンチ6a～6c，7a～7cを有する上，下パンチユニット6，7とからなる金型2と、上記各パンチ6a～6c，7a～7cを駆動軸10～15を介してそれぞれ独立して駆動することにより加圧成形を行なう加圧駆動機構3とを備えた粉末成形装置において、下第1～第3パンチホルダ28～30に形成された凹溝（連結手段）28c～30cに上記ダイス5、第1，第2パンチホルダ28，29に固着された係合ピン（連結手段）32～34を係合させて加圧方向に移動可能にかつ脱落不能に連結し、上記ダイス5を搬送テーブル8に固定ブッシュ（固定手段）37を介して装着固定する。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 6 2 3 1]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 8 日

[変更理由] 新規登録

住 所 京都府長岡京市天神二丁目 2 6 番 1 0 号

氏 名 株式会社村田製作所